

## 学部長挨拶

札幌学院大学社会情報学部長 齊藤 たつき

おはようございます。先程、司会の秋山先生からご案内がございましたように、1991年に日本で初の社会情報学部をこの大学につくったわけですが、その設置以来、今年で9回目になりますが、毎年「社会と情報に関するシンポジウム」を開いております。これは、最初からの経緯を申しますと、情報とは何かというようなことから始まり、社会の人間に関する活動に至るまでを明らかにするためにどのようなことが重要なのか取り上げています。毎年3名の講師の方をお呼び致しまして、日本でいうとトップクラスの研究者でございますが、お一人につきだいたい一時間前後のお話をして頂いて、そのあとディスカッションがございますが、明日はじっくり今日のお話に基づいて討論する、そういう形式で進めてまいりたいと思います。

最近、電子取引とか、電子決済、あるいは個人情報がいまいろいろ流通しているというような状況において、情報の管理、あるいはそのセキュリティという問題が大きな問題になっています。今年は早田教授の尽力で、そういう情報の管理とセキュリティに的を絞ってシンポジウムをやるということになりました。

若干講師の紹介を致しますと、まず最初にお話して頂きますNTTの情報流通プラットフォーム研究所の森田先生についてですが、森田先生はNTTにお勤めなわけですが、電気通信大学の大学院で客員教授として教鞭を執られています。今日はこの表題でございます情報セキュリティの最近の動向について、特に暗号アルゴリズムに関連して、セキュリティプロトコル、標準化の動向について、お仕事柄NTTにいらっしゃいますので、そのような問題についてお話頂けたらと思います。

二番目の講演の大阪市立大学学術情報総合センターの中野先生には、大学・企業におけるセキュリティ管理の実践に関してお話して頂きます。中野先生はネットワーク部門の研究、お仕事を主にされているということで、お聞きするところによりますと、図書館と計算センターを合わせたような、総合メディアセンターといいますか、図書館と計算センターが一緒になった大阪市立大学学術情報総合センターをつくられたそうですので、そのセキュリティシステムも含めて、セキュリティ管理の実際的な問題についてお話して頂きます。

三番目の講演は、名古屋市立大学の芸術工学部の吉村ミツ教授にして頂きます。吉村教授は筆者認識がご専門です。誘拐事件が起こりますと筆跡鑑定が問題になるのですが、そういうことも含めて、近代的な手法の筆者認識に関してお話して頂きます。個人を同定するにはいろいろあるわけです。古くから指紋とか、最近だと網膜のパターンを見るなどいろいろあるようですが、吉村先生は筆者を認識するというようなことについてご研究ですので、最近の成果につ



齊藤 たつき 学部長

いてお話して頂きます。

それでは、先程申しましたように、本日は主に三先生のお話を聞き、お話の後で質疑・応答を行いたいと思います。明日は、本日のお話に基づいてディスカッションしたいと思います。それではよろしく申し上げます。